

算数⑥ 3けた÷1けたのわり算の筆算のしかたをおぼえよう。(教科書P45・P46対応)

わられる数が大きな数になっても、わり算の筆算のしかたはかわりません
 「たてる→かける→ひく→おろす」のくりかえしです。特に、ひくをしたときにひいた答えがわる数より小さくなっていることをかくにんしながらしましょう。

① わられる数の百の位の数7をわる数5でわる。
 $7 \div 5 = 1$ あまり2
 この計算の商1を、わられる数の百の位の上を書く。(百の位にたてる)
 この1は、100が1こあるということですね。

② わる数5と、①でたてた1をかける
 $5 \times 1 = 5$
 この計算の積(かけ算の答え)5をわられる数の百の位の下に書く。
 この5は、100が5こあるということですね。

③ わられる数の百の位の数7と、②の計算の積5をひく
 $7 - 5 = 2$ ※たし算をしないように注意!!
 この計算の差(ひき算の答え)2を書く。
 この2は、100が2こあるということですね。

④ わられる数の十の位の数3を③で計算した差のとなり(十の位の場所)に書く。(十の位をおろす) ※同じ数を書くこと
 百の位の計算はここで終わり。
 今のままだと
 $73 \div 5 = 1$ あまり23
 ということになるね。

⑤ 百の位の計算でもとめた数23をわる数5でわる。
 $23 \div 5 = 4$ あまり3
 この計算の商4をわられる数の十の位の上を書く。(十の位にたてる)

⑥ わる数5と⑤でたてた4をかける。
 $5 \times 4 = 20$
 この計算の積20を書く。

⑦ $23 - 20 = 3$
 わられる数の一の位の数字4をおろす

⑧ 一の位の計算をする。
 $34 \div 5 = 6$ あまり4
 この計算の商6をわられる数の一の位の上を書く。(一の位にたてる)

⑨ $5 \times 6 = 30$ (かける)
 $34 - 30 = 4$ (ひく)

したがって、 $734 \div 5 = 146$ あまり4になる
 (けん算) $5 \times 146 + 4 = 734$

○商に0がたつ場合の筆算の仕方をかくにんしましょう。わられる数が3けたの場合、十の位と一の位が空くことはありません。必ず商(0)をたてましょう。

① $210 \div 4$ の筆算の比較

左: $4 \overline{) 210}$
 $4 \times 5 = 20$ を引く → 残り10
 $4 \times 2 = 8$ を引く → 残り2
 答え: 52あまり2

右: $4 \overline{) 210}$
 $4 \times 5 = 20$ を引く → 残り10
 $4 \times 2 = 8$ を引く → 残り2
 答え: 52あまり2

② $206 \div 3$ の筆算の比較

左: $3 \overline{) 206}$
 $3 \times 6 = 18$ を引く → 残り26
 $3 \times 8 = 24$ を引く → 残り2
 答え: 68あまり2

右: $3 \overline{) 206}$
 $3 \times 6 = 18$ を引く → 残り26
 $3 \times 8 = 24$ を引く → 残り2
 答え: 68あまり2

注: 右側の筆算で、10を引く必要がないことを示している。

○教科書P45木の11、P46木の12・13・14の問題をしましょう。

○3けた÷1けたの筆算をするときに、自分が気をつけたいことを書きましょう。

【学習した日時】 月 日 () 時 分 ~ 時 分

番 名前

算数⑦百の位に商がたたない3けた÷1けたのわり算の筆算のしかたをおぼえよう。(教科書P47~P49対応)

わられる数の百の位の数字がわる数より小さいため、百の位に商がたたない場合があります。その場合、十の位の数字をふくめて2けた÷1けたの計算をして、十の位に商をたてて筆算をしましょう。まちがって百の位に商をたてないようにしましょう。

① $2 \div 4 = 0$ あまり 2 なので、百の位に商はたたない。そこで、十の位の数字5もふくめて計算します。

② $25 \div 4 = 6$ あまり 1 (十の位に商6をたてる)
 $4 \times 6 = 24$ (かける)
 $25 - 24 = 1$ (ひく)
 わられる数の一の位の数字6をおろす

③ $16 \div 4 = 4$ (一の位に商4をたてる)
 $4 \times 4 = 16$ (かける)
 $16 - 16 = 0$ (ひく)

筆算での計算の仕方は、これまで学習した仕方とかわりません。正しく商をたて、かけ算、ひき算をしましょう。

【けん算】
 わられる数÷わる数=商あまり→わる数×商+あまり=わられる数

$$256 \div 4 = 64 \text{ (あまり)}$$

$$4 \times 64 (+) = 256$$

【百の位に商がたつ・商がたたない場合について】

百の位に商がたつ場合、わられる数がわる数より大きくなっています。たとえば、わられる数が256のとき、わる数は1 (わる数<わられる数の百の位) であるとするならば、百の位に商がたちます。しかし、わる数が2、3、4、5、6、7、8、9 (わる数>わられる数の百の位) であるとするならば、百の位に商がたちません。

○教科書P49木の1・2の問題をしましょう。

まとめ

わられる数のいちばん大きい位の数が、わる数より小さいときは、次の位の数までふくめた数で計算を始める。

【学習した日時】 月 日 () 時 分 ~ 時 分

番 名前

算数⑧暗算で計算しよう。(教科書P50対応)

2けた÷1けたの暗算をするときには、わられる数を分けて考えるとかんたん計算ができます。

1

74まいの色紙を、2人で同じ数ずつ分けます。
 1人分は何まいになりますか。

式 $74 \div 2 = 37$

$$74 \div 2 = 37$$

$$\begin{array}{r} 60 \quad 14 \\ \textcircled{1} \quad \textcircled{2} \end{array}$$

$$\textcircled{1} \quad 60 \div 2 = 30$$

$$\textcircled{2} \quad 14 \div 2 = 7$$

あわせて 37

① わられる数を何十といくつに分けます
 今回は、60と14に分けます。

② 分けた数をわる数でわります。

③ それぞれの式の商をたし算します。(上の式に商を書きましょう)

※ $74 \div 2 = 37$ の式を使って、 $740 \div 2$ の暗算をします。
 $\downarrow 10$ 倍 $\downarrow 10$ 倍
 $740 \div 2 = 370$

○教科書P50の木の問題をしましょう。

○教科書P53の「たしかめよう」の問題をしましょう。

【学習した日時】 月 日 () 時 分 ~ 時 分

番 名前